

誓いの言葉

本日は、私たち二十歳（はたち）のためにこのような式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。主催者の萱津公子教育委員様をはじめ、ご臨席くださいました来賓の皆様にご心より御礼申し上げます。今日という日を迎えられたのは、家族や恩師の先生方、地域の皆様に見守られ、共に支え合ってきた仲間が存在があったからです。重ねて深く感謝申し上げます。

私は現在、大学で学びながらラクロス部に所属しています。今年度、私たちは二年ぶりに一部リーグの舞台へ戻ることができました。その瞬間、“結果は誰かが運んでくるものではなく、自分たちでつかみにいくものだ”という思いを強く感じました。壁にぶつかることもありましたが、挑み続けた先でしか味わえない景色を知りました。また、勝負の場に立つほどに、人は一人では前に進めないことを痛感しました。支えてくれる人がいるから挑戦できる。共に戦う仲間がいるから折れずに立ち続けられる。周囲の存在の大きさに気づいた時、「感謝」という言葉は、私の中でより深い意味を持つようになりました。

私は小学生の頃から、保健体育の教師になる夢を抱いてきました。スポーツを通して得た学び、努力が形になる経験、仲間と支え合う力。そのすべてが、未来の生徒たちに伝えたい「人を成長へ導く経験」であると感じています。

二十歳（はたち）として社会へ踏み出す今、自ら選んだ道に責任と誇りを持ち、挑戦し続ける大人でありたいと思います。そして、これまで私が支えていただいたように、今度は私自身が、誰かの背中を押し、前に進む力になりたいです。支えてくれた全ての人への感謝を胸に、私は自分の道を信じて歩み続けます。以上、二十歳（はたち）を代表しての誓いの言葉とさせていただきます。

令和8年1月11日

丸子文化会館会場

（丸子中・丸子北中学校区域）

代表 田中 夢苺